

市内の各地区から清里地区まで市内広域で実施。市内の



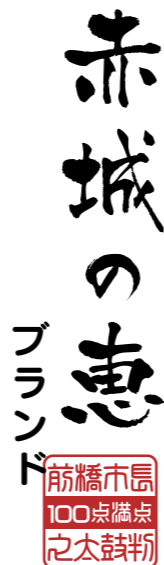
香ばしくふくよかな甘み

0キロの収穫がありました。作付けは清里地区から粕川内広域で実施。市内の

■市内各地区で生産
昨年、前橋産落花生は25戸の生産者によって、123軒の畑で、1,530キロの収穫がありました。作付けは清里地区から粕川内広域で実施。市内の

■連携による取り組み
本市では、昔から各地で落花生の栽培が行なわれてきました。平成23年に赤城の恵ブランドに認証された前橋産落花生。本市やJA前橋市のほか、群馬県中部農業事務所による生産指導、栃木県の専門業者による加工協力など、多くの連携に支えられています。

前橋産落花生



vol. 6



酒販店やスーパー、デパート、農産物直売所などで、3月末まで販売する予定で、1袋200g入りで希望小売価格は500円です。

■芋焼酎との相性も抜群

前橋産落花生「ナカテユタカ」を、昔ながらの天日干しにした後、ばい煎します。新豆ならではのふくよかな甘みと香ばしさが特徴で、赤城の恵ブランド認証品である本格芋焼酎「赤城の恵」に良く合います。

■健康・栄養

落花生はピーナッツと呼ばれていますが、木の実はではなく、豆の一種です。脂質を豊富に含むほか、ビタミンEやビタミンB群、ミネラル類なども含まれる栄養価の高い食品です。

■生産者からのメッセージ

おとしに比べて収穫量は減少しましたが、食べてもらった人から、「おとしよりも美味しい」と声を掛けてもらいました。ぜひ、私たちが心を込めて作った落花生をご賞味ください。

問い合わせは
JA前橋市 ☎027-261-3832

前橋市市民活動支援センター(愛称、Mサポ)を運営するNPO法人市民活動を支援する会の代表。市民活動に関する情報提供や各種セミナーの開催など、市民の自発的・自主的な活動を支援している。

「年齢や性別に関係なくいろいろな活動を行っている人たちに会えることが、この仕事の魅力です」

市民活動に関心をもち始めたのは12年前。知り合いに誘われて、子育て支援のボランティアに携わったことがきっかけだ。主な活動内容はチラシの作成だったが、社会的な課題を解決するためには、組織的・継続的な取り組みが必要であることを、この時感じた。建築士の資格を持つ萩原さんは、建



Mサポで市民活動をバックアップ

萩原 香さん 55歳
日吉町四丁目

皆さまの自主的な活動をつなげたい

築士の仲間と共に、知識と経験を生かして、誰もが安全で安心した暮らしができる住環境の研究や小学生を対象とした住教育を続けている。

「仕事としてはできないけれど、興味のあることをやっている感じです」

市内で活動しているNPO・ボランティア団体と市民との交流イベント「Mサポふれあい祭り」の開催を3月1日(土)に控え、現在準備を進めている。

「Mサポについて、まだまだあまり知られていません。このイベントを通して市民活動に関心をもっていたら、多くの人たちにこの施設を活用していただきたいと思います」

萩原さんの活動により、市民活動の輪が広がることを期待したい。



旧磯部湯でアーティストトーク

アーツ前橋では12月15日、旧磯部湯(千代田町一丁目)で「磯部湯トーク」を開催しました。アーティストの伊藤存さんと幸田千依さんが、地域アートプロジェクトでの滞在制作や作品について対談。来場者は、会場に広がる芸術の世界に引き込まれていました。



クラブ活動でころとんをPR

市立前橋高では学校のバスにころとんのステッカーを貼り、ころとんのPRに努めています。クラブ活動での移動中や遠征先では他校の生徒などから注目されるなど評判は上々。生徒たちも笑顔でバスに乗り、クラブ活動を頑張っています。



都内でバラのトップセールス

12月13日、東京都世田谷市場でバラのトップセールスを行いました。山本市長とJA前橋市・大澤組合長を中心に色鮮やかで高品質な前橋産切りバラをPR。セリ場に集まった約300人の買参人を前に前橋産バラの魅力を伝えました。



会場が息をのむ演技を披露

12月15日、市民文化会館で市民芸術文化祭を開催。劇団ペルソナ館と児童文化センター演劇クラブ、同クラブの保護者たちが共演し演劇を披露。江戸時代の貧しい農民たちの姿を描いた「ペロだしチョンマ」を熱演し、観客から惜しみない拍手が送られていました。